

提言1 都市の魅力や活力の向上、市民生活の豊かさの向上に向け、市民・民間主体の国際交流の裾野の拡大と担い手の育成に取り組むこと。

【具体的な提言内容】

- 若い世代をはじめとする市民の国際交流に対する興味や関心を高め、交流の機会の増加につなげるため、民間団体等が実施する事業や取組の積極的な周知に努めること。加えて、京都市が実施する国際関連の事業や取組が市民に伝わるよう、情報発信の工夫に取り組むこと。
- 市民が国際交流の活動を始めるうえで、仲間づくりを円滑に進めることができるよう、既存の団体の活動状況など必要な情報を得られる場を提供すること。
- 市民・民間主体の国際交流の活動が、継続・発展していくよう、必要な助言や相談に応じる仕組みを整えるとともに、活動内容の情報発信をサポートすること。

【提言の背景】

京都市では、9つの姉妹都市との幅広い交流や、特定の分野で市民間の交流を行政が支援するパートナーシティの枠組みなどを生かし、市民・民間主体の国際交流が進められている。しかしながら、京都市市民生活実感調査において、「市民、民間主体の国際交流が行われ、様々な世代で外国文化への関心や理解が高まっている」と感じている市民は現状で3割程度にとどまっており、決して多いとは言えない。また、近年の外国人観光客の急増は、一部観光地の混雑・マナー問題などの観光課題を発生させ、市民生活に影響を及ぼしており、市民の国際交流への関心の低下につながりかねない。

国際交流を通じて異なる文化的背景や考え方、多様な価値観に触れ、認め合うことは、グローバル化が進む社会に対応できる人材の育成、経済・文化芸術・学術におけるイノベーションを起こす原動力となり、個人、地域、企業、ひいては都市の魅力や活力の向上、市民生活の豊かさの向上につながる。

今後も様々な分野において交流を深めていくためには、とりわけ若い世代を中心に、国際交流への関心を高め、参加する人を増やす中で、交流の幅を広げ、発展させることのできる人を育てていくことが求められる。これらを踏まえ、本提言は、①国際交流に対する興味・関心のきっかけづくり、②交流活動の仲間づくりのサポート、③交流活動の継続・発展のサポートのそれぞれの段階に応じた取組が進められることを期待し、行うものである。